玉造中だより
楽し学舎（まなびや）
No. 4
R2・4・24

一人一人の努力が日常生活につながる

臨時休校が５月７日まで延長！

HP は最新の学校からの情報がアップされています。

新型コロナウィルス感染拡大を受けて、全都道府県に緊急事態宣言が発令されました。それを受け、本市においても、当初は二十四日に学校再開を予定していましたが、五月八日（金）に再開が延長されました。それに伴い、生徒たちのストレスの解消、学習相談及び臨時休校中の生活や学習の再確認を行うために分散登校を市内の小中学校で実施することになり、二十四日（金）は「三年生」、二十七日（月）は「一・二年生」が登校日となりました。

これから大型連休を控えていますが、これまでとは生活の仕方が大きく変わっていることを自覚して連休を過ごして欲しいと思います。

苦しいけれど「不要不急の外出」を控える

大型連休を前にして、これまでだったら家族で遠出をしたりする計画も立てていたかと思います。しかし、現状を考えると、今年だけはご家族みんなで感染症対策をお願いします。今、一人一人が意識して外出を控えることで、専門家が言っている「八割削減することで、一か月後に感染者が激減する」につなげていきたいと思います。大事な家族を守ること、日常の生活をはやく取り戻すために、今は我慢することも必要かと思います。

家庭での「健康チェック」をお願いします。

この臨時休校期間は家庭での生活が主になりますので、ご家庭でもご家族の「健康チェック」をお願いいたします。毎朝のみんなで検温、手洗い等、家族みんなで感染症対策をお願いします。また、「睡眠の確保、三食食べる」の習慣作りと、家の中や庭等での軽い運動（動画等を参考に）をしてストレスの軽減をお願いします。

臨時個人面談受け付けます！

保護者の皆様の中には、新型コロナウィルス感染拡大防止のために年度始めの授業参観や家庭訪問が中止となり、お子様の担任と顔を合わせる機会がなくなり、不安に感じている方もいらっしゃるのではないかと思います。

そこで、希望される保護者の方を対象に、臨時の個別面談を行いたいと思います。

【面談日】
四月二十八日（火）
三十日（木）
五月一日（金）
七日（木）

【面談時間】
いずれの日も午前九時から午後四時

【申し込み方法】
玉造中学校まで電話で（TEL 55 0131）

※担任が日程を調整し、ご連絡いたします。

新任の先生紹介

一年三組担任
○○　○○　先生

○○先生は潮来市立牛堀中学校から玉造中へ転入されました。一年三組を担任し、担当教科は一年生と二年生の理科を担当します。部活動はバドミントン部です。

先生が理科の先生を目指したのは、学生時代に理科の中でも特に化学の分野が好きで、目に見えない原子分子の世界を、実験での化学変化を通して、目に見えない世界がイメージできることに興味を持ち、理科の先生になったそうです。今で言う「理系女子」の先駆けを行っていたことになります。そんな先生ですが、実験中に、熱した試験管を素手で触ってしまいヤケドをするなど、失敗することもたくさんあったそうです。

先生は学生時代はバレーボール部に所属し、毎日、練習や試合に明け暮れていたそうです。今はバレーボールとは離れてしまっていますが、身体を動かすことは大好きで、お子様が生まれる前までは長距離を走ったりすることにも挑戦していたそうです。

今の趣味は、二人のお子様と遊ぶことです。小さい子どもの想像力や日常生活のなぜという疑問。例えば「なぜ風が吹くと葉っぱが飛ぶのか？」「水はなぜ上から下に流れるのか？」といった、子どもの自然に対しての素朴な疑問を知ることが、自分にとっても理科教師として大変勉強になるそうです。

玉中の第一印象は「エネルギー」を生徒から感じたことです。まだ何日しか過ごしていませんが、そんな中で教室やグラウンドでみた玉中生は、とてもエネルギッシュで可能性を感じました。これから皆さんと勉強や部活動で一緒に過ごせることを楽しみにしているそうです。よろしくお願いします。

学級だより

今年の担任がどのように学級経営を進めるのか、お子様について知っておいて欲しいこと、この休校期間中の生活について等、疑問に思っていること、どんなことでも結構ですので気軽にご連絡いただければと思います。

臨時休校期間中にも急な変更等の連絡をすることがあるかもしれません。そのような場合はその都度メール配信システムで連絡させていただきます。また、ホームページ上でも最新の情報を掲載しますので、随時チェックの方をよろしくお願いいたします。

編集後記

「こんな中学生に」

ある新聞の投稿欄「小さなそば屋を始めて三十年。今は一人でほそぼそと営んでいます。先日、出前から店に戻ると数台の自転車があり、店内に中学生らしき男の子が数人いました。『午後一時からの知人の葬式に行かなくちゃならないのに。困った。』と内心思いながら、注文を受けて食事を出し終わった後、『おばちゃん、今からお葬式に行かなくちゃならないの。みんなは食べ終わったら自由にしていていいからね。』と言い残し、急いで店を出ました。

葬式を終えて戻る途中、『あれだけワイワイ盛り上がっていたんだから、さぞかし店内は散らかっているだろうな。』と思い、店の戸を開けるとビックリ。食べ終わった丼類はカウンターの上にきちんと重ねられ、テーブルの上もゴミ一つなく整然としていて、『なんてよい子たちなんだろう』と涙が出るほど感動しました。親御さんの優しい姿までが想像でき、とても明るい、すがすがしい一日になりました。」

さて、どんな感想だろうか？当然じゃないの？と思う人も多いかと思う。しかし、これがなかなか行動としてできないことなんだ。誰も見ていない、自分たちはお客なんだからなぜ片づけまでやらなくちゃならないの。そういう風に思っても仕方がない。でも、彼らはさりげなく片づけ帰って行った。きっと、おばちゃんの店の事情もよく知っていて、当然のごとく片づけて帰って行ったのだろう。こういうさりげない行動をすることができる中学生を私はカッコイイと思うのだが、果たしてみなさんはどう思いますか？

（文責：小野口　吉政）